

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2020 年度事業報告

【 2020 年度事業報告 】

1. 「第 3 次中期計画」の 2 年目となる 2020 年度は新型コロナウイルスによる影響により助成団体の 8 割が活動を縮小し、財団も様々な計画の変更を余儀なくされました。そのような中でも感染予防対策を実施しての助成説明会の開催や助成団体の訪問、またオンラインでの交流などコロナ禍でもつながり続けることに取り組みました。
2. 支え合う地域づくりをめざし、多様な活動に取り組む 170 グループに対して総額 876 万円のボランティア活動助成を行いました。5 月に助成団体に向け実施した緊急アンケートの結果を踏まえ、助成金の使途についてはコロナウイルス対策のための弾力的な運用に変更し、また「オンライン」をテーマとした研修を開催するなど助成団体の要望に寄り添いながら支援を継続しました。
3. 社会的課題解決にチャレンジする団体を賛同企業とともに応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、21 社から寄付を得て、7 グループに対し総額 254 万円の助成を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染症に対応し、支援事業を新たに立ち上げている団体へも助成しました。
4. 第 3 次中期計画の中に位置付けられた若い世代のボランティア人材の養成を目指して「高校生のボランティア顕彰」を実施し、2 回目となる今回は選考の結果、コロナ禍においても活動を止めることなく高校生らしい前向きで若さに溢れた素晴らしい活動を行っていた 17 校を顕彰しました。

I. まちづくりの一翼を担う中間組織として、地域課題の解決に取り組む団体や人、ネットワークを支援します

1. ボランティア活動助成

(1) 20 年度助成の分野別実績

	分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
①	福祉	高齢者	43	1,233,000	14.1
		障がい者	21	1,025,000	11.7
		地域住民	8	273,000	3.1
		在日外国人	2	170,000	1.9
		施設・病院	4	94,000	1.1
		その他(がん患者)	2	133,000	1.5
		合計	80	2,928,000	33.4
②	まちづくり		16	1,139,000	13.0
③	文化・芸術		6	90,000	1.0
④	地域安全		0	0	0

⑤	防災・減災		2	298,000	3.4
⑥	多文化共生		2	143,000	1.6
⑦	子ども育成		47	2,717,000	31.0
⑧	環境		16	1,380,000	15.8
⑨	その他(フードバンク)		1	63,000	0.7
合 計			170	8,758,000	100.0

(2) 「市民活動交流会 2020」開催中止

2020年度の市民活動交流会は新型コロナウイルス感染症の影響によりやむを得ず開催中止としました。

(3) スタッフがグループを訪問し、コロナ禍での活動を発信

2020年度助成対象となったグループのうちコロナ禍でやむを得ずいったん活動を休止したものの感染防止対策をして再開したグループをスタッフが訪問し、コロナ禍だからこそ活動を再開させた想いやオンラインなど工夫した点についてヒアリングを行いました。

その内容については今後、活動を再開するにあたっての手がかりを共有化できるよう財団の広報誌「ともしび通信」で発信しました。

(4) 助成団体向け講座の開催

広報についての困りごとが多く寄せられることを受け、チラシ作成とネット印刷を実際に体験できるパソコン講座を開催しました。比較的安価で手軽にチラシ作成ができ、広報活動に役立つと好評でした。また、財団主催のオンライン会議(Zoom)体験会に参加することでコロナ禍でも交流できる手段を得た結果、活動を再開することになった団体もありました。

2. 社会的課題解決にチャレンジする団体への助成

(1) 第4回「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」

(上限 50 万/団体、助成総額 254 万円)

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体を、賛同企業と力を合わせて応援しようと、2016年度に「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」を立ち上げました。この助成では財団としては初めて、「NPO など法人格のある団体も応募可能」とし、対象団体の幅をひろげています。

第4回目となる今年度はコロナ禍でも23団体から応募があり(昨年度は40団体が応募)、書類選考を通過した10団体が賛同企業の代表による選考を経て7月8日の専門委員による最終選考会に進みました。下記7団体に合計254万の助成と残金5千円の次年度への繰越を決定しました。

グループ名/プロジェクト名	プロジェクト内容
認定特定非営利活動法人 ゲートキーパー支援センター (50万円) プロジェクト名 / 研修と相談のオンライン化プロジェクト	コロナの影響で、今後自殺者が増加するのではないかとされている中、3密を避けて、ゲートキーパー研修と相談業務をオンラインで実施します
特定非営利活動法人 つどい場さくらちゃん (50万円) プロジェクト名/ 「集えない」「触れられない」を超えた“まじくり”の実践ーポストコロナに向けた「つどい場事業」	コロナ禍においても、高齢者や介護者が孤立せず、喜び、悲しみ、悩みなどの感情を共有し、情報交換ができるつどい場や、研修会をオンラインで開催します
認定非営利活動法人 子どものこころと発達支援会 あんだんて (42万円) プロジェクト名/ おうちであまねっこプロジェクト	コロナによる外出自粛で、日常生活が奪われ、心が不安定になる子どもが多くなっています。障害児を対象としてオンラインで継続的に信頼関係を維持しながら発達を支援します
歯科医療サポートセンター (32万円) プロジェクト名/ 楽しくお口のトレーニングをしよう ～子どもの健康的な口腔機能を育成～	子どもの健康的な口腔機能を育成するために、食事の仕方を見直したり、自宅で簡単に取り組める予防トレーニングをサークル等で普及します
高齢者福祉を考える住民の会 はこべら (30万円) プロジェクト名/ 高齢者の防災・減災拠点になるつどい場づくり	近くに揖保川が流れる龍野町で、台風や豪雨の際に、一人暮らしの高齢者が避難への不安や遅れがないよう、普段通いなれているつどい場を避難場所として活用します
特定非営利活動法人 里地里山問題研究所 (50万円) プロジェクト名/ 「獣害から地域を守る」丹波篠山黒豆オーナーによる耕作放棄地の再生と里地里山の価値向上	獣害対策や黒豆栽培を通して、地域内外の多様な人材が協力し地域の課題解決や里地里山の価値向上に貢献する新たなコミュニティを作り、持続可能な農村の未来を切り拓きます
宝塚視力障害者協会 (20万円) プロジェクト名/ コロナと障害者 in たからづか 2020	「コロナと障害者 in たからづか 2020」を開催し、様々な障害をもつ方たちと「コロナは障害者に何をもたらしたのか」を振り返りシェアし「これから」を考えます

(2) 助成団体を訪問し賛同企業へ報告

新型コロナウイルス感染予防対策として2020年度は公開選考会の開催を見送ったため申請団体のプレゼンテーションがありませんでした。そのため財団スタッフが7団体全てを訪問し、プロジェクトに込めた思いや進捗状況をヒアリングし、訪

問記にまとめて賛同企業に伝えました。今後も賛同企業には丁寧にお知らせし、継続的な支援を呼びかけます。

3. ひと育て、学びや交流の場の充実

(1) 第2回「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施

第3次中期計画の柱の一つである、若者のボランティア人材の育成のための取り組みとして、「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施しました。高校生がボランティア活動を通して、心豊かに成長し、次代の担い手となることを目的としています。

2回目となる今年度も兵庫県教育委員会と兵庫県私立中学高等学校連合会のご後援を得、神戸市校長会でのご案内や各高校へダイレクトメールを出すなどの広報活動を行った結果、県内22校から申請がありました。選考会を経て、17校の顕彰を決定し、顕彰状と副賞として3万円を贈りました。また、昨年は新型コロナウイルスの影響で顕彰を受けた高校生の報告交流会は見送りとなりました。そこで今年度はオンライン（Zoom）による交流会を3月24日に開催しました。10校の生徒や先生、コープこうべの職員など約70名が参加し、それぞれの活動についてのプレゼンや少人数のグループでの交流の中で感想や意見が活発に交わされました。今後も高校生の活動やつながりがさらに広がっていくよう、引き続きサポートしていきます。

(2) 地区本部スタッフとの連携

社会課題の発見と解決を目指してそれぞれの地域で活動続けるコープこうべの地区本部スタッフの情報交換会をコープこうべ地域活動推進部との共催で2回に亘り開催しました。財団の助成団体による活動情報の発信や交流、また地区スタッフの地域での協働・連携事例の共有を行うことで地区本部と財団が進めるべき今後の地域連携に向けての足がかりとなりました。

II. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに拡げます

1. 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

(1) ともしび通信の発行

コロナ禍で集まることや訪問が見送りになる中で年4回発行のともしび通信を最大限に活用し、団体の情報や財団の動きなど丁寧に広報しました。

2. コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

(1) レインボースクール

店舗で開催される学習会「レインボースクール」において財団のスタッフが講師となり「片づけが寄付になる！？知ってすっきり片づけのコツ」をテーマに7会場で開催し、延べ80人の参加がありました。身近な片づけをきっかけにしてきしゃぼんへの寄付への呼びかけるとともに財団への理解を深める機会となりました。

(2) スマホ講座

コロナ禍でもつながりたいという思いから総代など組合員から要望の高かったスマートフォンの使い方について財団スタッフがマンツーマンで家族のように優しく教える少人数制の講座を開催し、好評を得ました。そこで得られた結果をもとにコープこうべ第3地区本部と連携し、大学生が教えるZoom講座に発展しています。今後も内容

をブラッシュアップさせながら他地区へも拡げていく予定です。

Ⅲ. 財団の基盤の安定をめざし、資金調達と事務局機能の強化を図ります

1. 資金調達の強化

(1) 2020 年度賛助会費・寄付・募金について

2020 年度の実績は、賛助会費・寄付・募金の総合計 16,264,276 円でした。また、この度コープこうべから 8,000 万円の寄付を受けました。この寄付金については指定正味財産として繰り入れ、運用はせず助成目的の必要額を年度ごとに一般正味財産として振り替えることを計画しています。

(2) 古本募金「きしゃぽん」や書き損じハガキ回収などの取り組み

2016 年の 7 月から新たに取り組み始めた「古本募金 きしゃぽん」は 2020 年度、約 132 万円の募金となりました。コープの店舗を中心として回収ボックスの設置数も 34 カ所に増えています。

また、コープ委員会、コープ職員を対象に「古切手、書き損じハガキ回収キャンペーン」を実施し、約 39 万円の切手などに交換することができました。

(3) 夕食サポート事業との連携

高齢者世帯を中心に毎日夕食のお弁当を届けるコープこうべの夕食サポート事業「まいくる」では、兵庫県内での利用 1 食あたり 0.5 円を当財団に寄付いただいています。毎年緩やかに増加しており、今年度は 1,013,568 円になりました。

(4) 基本財産運用

超低金利と先行き不透明な時代の資産運用について勉強会を開催しました。

2. 財団の基盤、人材育成の強化

(1) 財団スタッフのスキルアップ

兵庫県内で活動する助成財団同士の交流会に参加しました。(公財)木口財団、(公財)やまぶき財団、(公財)ひょうごコミュニティ財団、(一財)大吉財団、(認定)しみん基金・KOBÉ の職員が参加しています。この交流会は、財団を取り巻く環境の変化について共有化することや、各財団の課題や取り組みについて情報交換することを目的としています。2020 年度は 2 回開催し、当財団からもスタッフが参加しました。

また、オンラインで開催されたファンドレイジングセミナーにも参加し、コロナ禍をきっかけとした寄付意識の変容や寄付者・支援者管理の重要性を学びました。